

吉村順三「軽井沢の山荘」サッシ部分の1/1 模型制作

八代研究室
01212071 高野 幾矢

1. はじめに

本学の1年次2Q「建設製図Ⅱ」の住宅トレースの課題である吉村順三「軽井沢の山荘」は、彼自身の別荘で代表住宅作品のひとつでもある(図1)。吉村は建築家の使命について「建築を設計する上で一番大事なのは結局原寸だ」と述べている。本制作は、「軽井沢の山荘」の木造開口部まわりの原寸図を描き、その1/1 模型を制作し、授業の教材に供することを目的とする。

2. 作品概要

長野県北佐久郡軽井沢町にある「軽井沢の山荘」は、三方をせせらぎに囲まれた小高い丘の上に建ち、この場所の湿気と不在時の管理を考慮して、図2に示すように、1階RCの箱の上に木造の2階と屋根裏の片流れが乗っている。主室となる2階は7.2m(24尺すなわち四間)四方の正方形で、森の巣箱のような豊かな空間に仕立て上げられている。

3. 制作内容

3.1 図面

吉村順三の作品図集²⁾から新たにAutoCADで図面に起こし柱とサッシ部分(戸袋)を1/1の平面詳細図を描いた(図3)。建具は外側から雨戸、網戸、ガラス、障子の順に走り、図1右に見るように、一番内側の障子を除く全てが戸袋に収納することで快闊な視界が得られている。

3.2 模型制作

本制作のメインとなるサッシ部分は図3の枠で囲んだ部分であり、図4にその詳細図を示した。外側から雨戸、網戸、ガラス、+?の?本引きで、ここでも全ての建具を柱の外に追い出し、戸袋に収納可能としている。

本制作でメインとする箇所の主な寸法は以下の通りである。

柱：90mm×90mm(杉)、
間柱：90mm×45mm(杉)、

サッシの幅：710mm、

戸袋部分900mmから窓台部分は1,610mmとした。他36mm×24mmなど。

4. 制作工程

本制作を円滑に進めるため、まず、図5に示す3Dモデルを作成した。平面図、断面図から1つ1つの部材の寸法を割り出した。また本制作の模型の高さは横断面を切り取ったサッシ部分とするため柱からの高さ300mmとする。

加工はティンバー実習場で行った。1/1の部材を1つずつ加工しようとする長い部材で窓台の1,610mmになるため、まずは試作を重ねていくことで加工の失敗のリスクを減らした。

特に窓台の部分はレールの部分に勾配がある、そのため窓サッシ部分も勾配がついているので斜めにカットしなければならない。

5. おわりに

本制作を通して吉村順三が設計した軽井沢の山荘の理解を深められた。今回制作するにあたり私自身うまくサッシ部分や窓台などの全体像を理解できず図面などで表せない所を見逃している箇所が多々あった。また大きな反省点として、図3の詳細図を今回はCADで制作したが、吉村がいうところの原寸図の大切さとは、実際に自分の手でスケールを実感ながら描くであることを、制作終盤になって気づいた。

なお、本制作であるサッシ部分の1/1/模型は本梗概提出時において制作中であり、スケジュール管理の欠如も痛感している。

【参考文献】

- 1) 吉村順三・宮脇檀『吉村順三のディテール/住宅を矩計で考える』彰国社 1979
- 2) 吉村順三設計事務所『吉村順三建築図集 第1巻』同朋舎出版 1990年
- 3) 吉村順三、さとうつねお『小さな森の家/軽井沢山荘物語』建築資料研究社 1996年



写真1 軽井沢の山荘
(撮影 奥田健二)

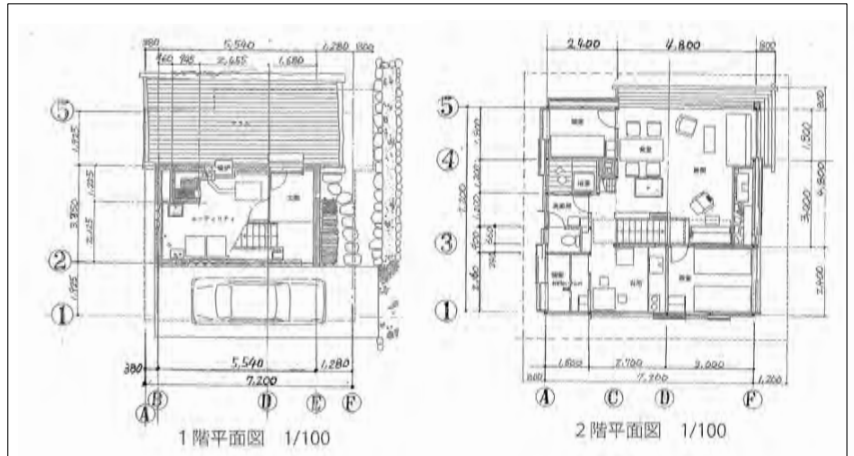


図1 1/100平面図

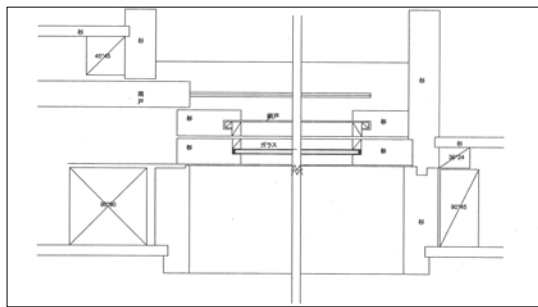


図2 W3部分詳細図

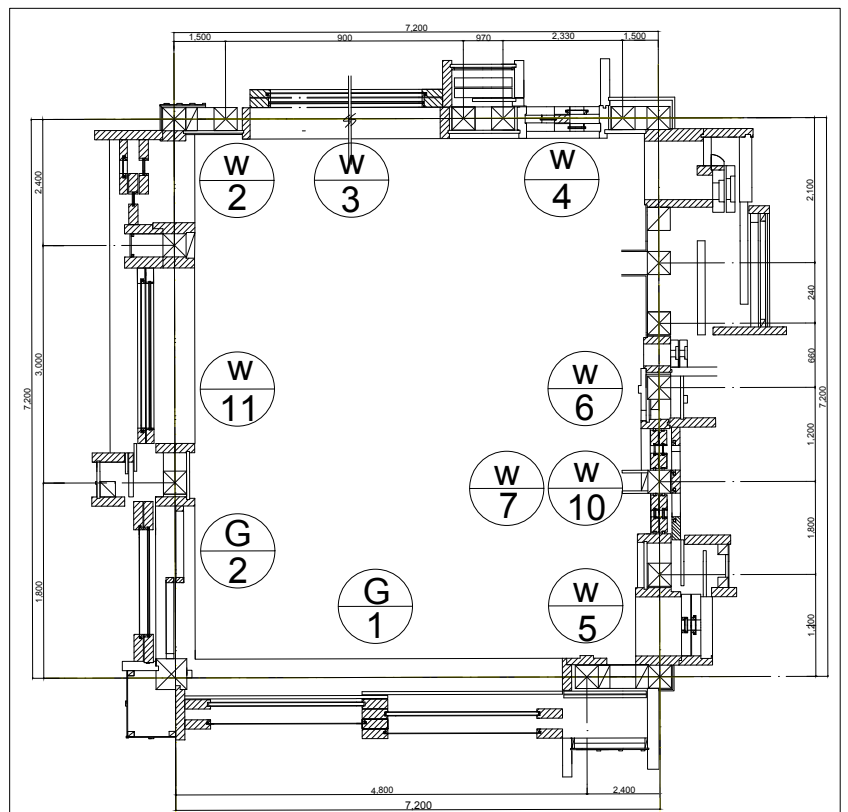


図2 詳細平面図

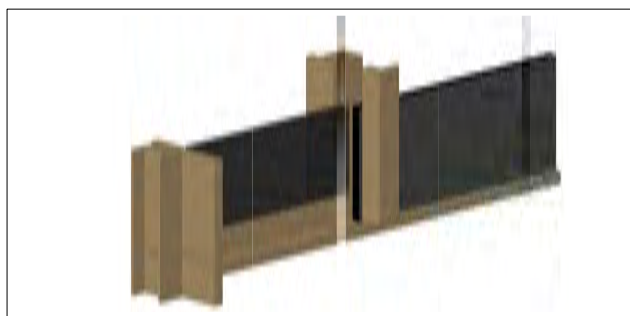


図4 3Dモデル

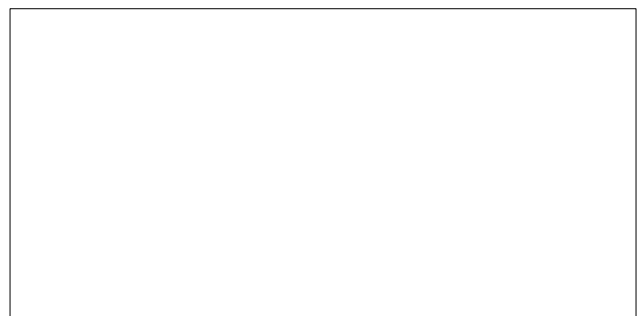


図4 1/1完成模型図